



みはらふくし情報

9月号

令和3(2021)年
9月1日発行

— 三原市社協各地域センターからのお便り —

本部・三原地域センター(三原市総合保健福祉センター4階) 電話(0848)63-0570 FAX(0848)63-0599
本郷地域センター(三原市本郷福祉センター) 電話(0848)86-3607 FAX(0848)60-6064
久井地域センター(三原市久井保健福祉センター) 電話(0847)32-7101 FAX(0847)32-5011
大和地域センター(三原市大和保健福祉センター) 電話(0847)34-1214 FAX(0847)35-3020

全国でコロナ感染者が増加しており、現在広島県には、緊急事態宣言が発令されています。

みなさまには、引き続き活動の自粛をお願いしていますが、長い自粛で、意欲の低下や体調を崩してはいませんか?不安なことや、今後の活動のことなど、一人で悩まずに遠慮なく社協までご相談ください。

住民による地域福祉活動の必要性を考える ～7月31日(土) 地域福祉講演会 開催～

この講演会は、地域福祉活動の理解の促進と普及啓発を目的に、毎年開催しています。

今年度は、講演の他に、市内で地域福祉活動に取り組んでいる実践者2名をお招きして、

「活動を通じて感じること」を話してもらいました。

参加者からは、「人と人とのつながりが原点であることがよく分かった。」「実践者の報告に心打たれた。自分の地域でも取り組んでみたい。」などの意見をいただき、大好評でした。

今回は、講演と実践報告で話されたことを少しご紹介します。
みなさんの地域や活動の参考にして下さい。



講演会

県立広島大学 保健福祉学部 保健福祉学科 手島 洋さん

地域福祉活動が求められる背景

- 高齢者の単身化が進み、地域内の人間関係が薄くなり、孤独感を感じる方が増えている。
- 子育てや介護、葬式など地域で助け合ってきたことが、今はサービス(お金)で買える時代に。助け合いの意識は低下し、遠慮も増えた。地域の自治組織の加入率は減り、組織維持も困難に。
- 「地域福祉活動」を通じて、社会とのつながりや助け合いの関係性を再構築することが必要。



実践報告を通じて分かること

- いくら生活が便利になっても人は身近な人の支えで生きていける。
- 自分たちで地域課題に気づき、その解決に向けて活動するサイクルは、住民主体による地域福祉活動の本質である。
- 民生委員や専門職との協働は、地域課題の解決手段として有効。

裏面に続く



実践報告① サロン活動 本郷地区 城山町内会 城山ふれあいサロン 事務局 齋尾 敏子さん

活動を通じて感じること

- 活動内容を考える時に、町内の関係者へ相談することは大切。(子供会、女性会、老人会と協力し合うことで、より良い取り組みができた。)
- いい加減にやるのが大切。ボランティア活動は会社ではない。井戸端会議や無駄話の中に活動のヒントが隠れている。
- サロンの世話係をするまでは、「人の世話にはならない。」と思っていたが、今は「人の世話にならないと生きていけない。」と実感している。やっぱり生きる上で人とのつながりは必要。



実践報告② 見守り活動 鷺浦町佐木区 見守りサポーター 西原 和子さん

活動を通じて感じること

- 高齢になり、サロンへの参加を遠慮する参加者が増えていた。そんな中、区として見守り活動の方針を示してくれて嬉しかった。自分たちだけではできなかった。
- 住民による日常的な見守りは、気かけ合いの意識を高めていると実感する。まさに「地域づくり」の活動だと感じる。
- 連絡会議で、対象者の気になることを話し合っている。心配なことがあれば民生委員や福祉専門職も相談に乗ってくれるので、安心感がある。



被災した家の清掃や片付け ボランティアがお手伝いします

このたびの令和3年7月と8月の大雨により被害を受けられた住民の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。三原市社会福祉協議会では、被災された住民の皆さまへの支援を行っています。ご自宅の清掃や片付けや、生活の困りごとなど、お気軽にご相談ください。

○ボランティアを依頼される方は、下記へご相談ください。

三原市ボランティア・市民活動サポートセンター

電話：090-7129-8715 (月～金曜 9時～16時まで受付)

FAX：0848-63-0599

メール：miharavs-c@m-shakyo.jp

